

# 「地域で暮らす」を覗いてみよう

2022年度帝京平成大学四季祭 看護学科発表



## 授業で 透明文字盤体験

### ◎地域で暮らす人々と それを支えることについての考え

- ・一人暮らしを支える  
→障がいを持つ人は一人暮らしが不可能という偏見をなくす  
→医療チームの実現  
ex) 医師 看護師 言語聴覚士 介護ヘルパー
- ・当事者のニーズに合わせた介助を行う  
→介助者は客観的にみて判断・行動をしない

「自分の手が勝手に動いたら怖い」



当事者のニーズを聞いてから動く

### ◎事業に参加した対象者の 様子や発言で印象に残ったこと

- ・障がいを診断された当初、自分も障がい者となるんだ...と落ち込んだ  
→しかし、他の障がい者の方々と交流をしていく中で皆で頑張ろうという気持ちになった
- ・私たちは当事者であって、患者な訳ではない
- ・誰に対しても明るく、伝えたいことをしっかりと伝えているように接していた

- ・食べたいものを食べたり、ゲームをしたり買い物に行ったり、当たり前的事ではあるがそれらを支援者でなく当事者が中心となって生活を送っていた
- ・入れるお店が限られているが、諦めずはどうすれば入れるようになるか考えている  
→空いている時間に入るなど工夫している
- ・生きる時間に限りがあるから毎日を前向きに希望を持って暮らしている

### ◎将来、看護師になるための課題や抱負

- ・患者さんが苦しい中でも希望をもって生活できるような支援をしていくこと
- ・病院を出た後の地域での暮らしも見据えて当事者の方と関わり、地域での暮らしを充実できるようにサポートしていくこと
- ・一つの考え方だけでなく、多角的な視点で当事者の方を捉えることに気を付け、どんな人にも寄り添える看護師になること
- ・色々な生活スタイルを提案し、当事者の方がそれを目標としてもらえるようにサポートしていくこと



# 「地域で暮らす」を覗いてみよう

2022年度帝京平成大学四季祭 看護学科発表



↑実際のお宅訪問の様子  
全員当事者の方々と交流することが初めてだったので、いろいろなことを話していただいたり、させていただきました。

## 参加して学んだこと

障害は当事者が持っているのではなく**社会に障害があ**って当事者の生活が制限されている

支援さえあれば当事者の方々でも**自立して生活を営んでいくことは可能**

## 障がいを抱える方々に対する 私たちが看護職に就いた際の課題や抱負

- ・障がいを抱える人々(当事者)には私たちに**見えない視点**をもっている  
→**当事者の目線**になって町の設備やサービスを考える必要がある
- ・当事者の**できること**、**できないこと**をコミュニケーションを通して**理解し**、**できないことをサポート**することが重要
- ・障がいについて**看護職以外の人にも理解**してもらうために**学習の場を提供**する



# 「地域で暮らす」を覗いてみよう

2022年度帝京平成大学四季祭 看護学科発表

## 地域事業に参加する前

障害に対するイメージ

- 五体満足とはいかないこと
- 誰かの力を借りなければ生活できない
- 日常生活に何らかの障壁があること
- かわいそう

## 地域事業に参加した後

障害に対するイメージ

- 障害があるのは「物や環境」である
- 誰にでも障害がある
- 人の手を借りれば日常生活が送れる
- 障害は「一つの個性」

障害とは  
何なのだろう

地域事業  
を終えて



介助者と当事者の家族のような温かい関係

実際に介助に入り、当事者に対して障害を感じたことはありませんでした。  
これから看護師になる上で先入観にとらわれない考え方が大切だと思いました。  
また世間にとって障害がもっと身近な存在になるべきだと思いました。